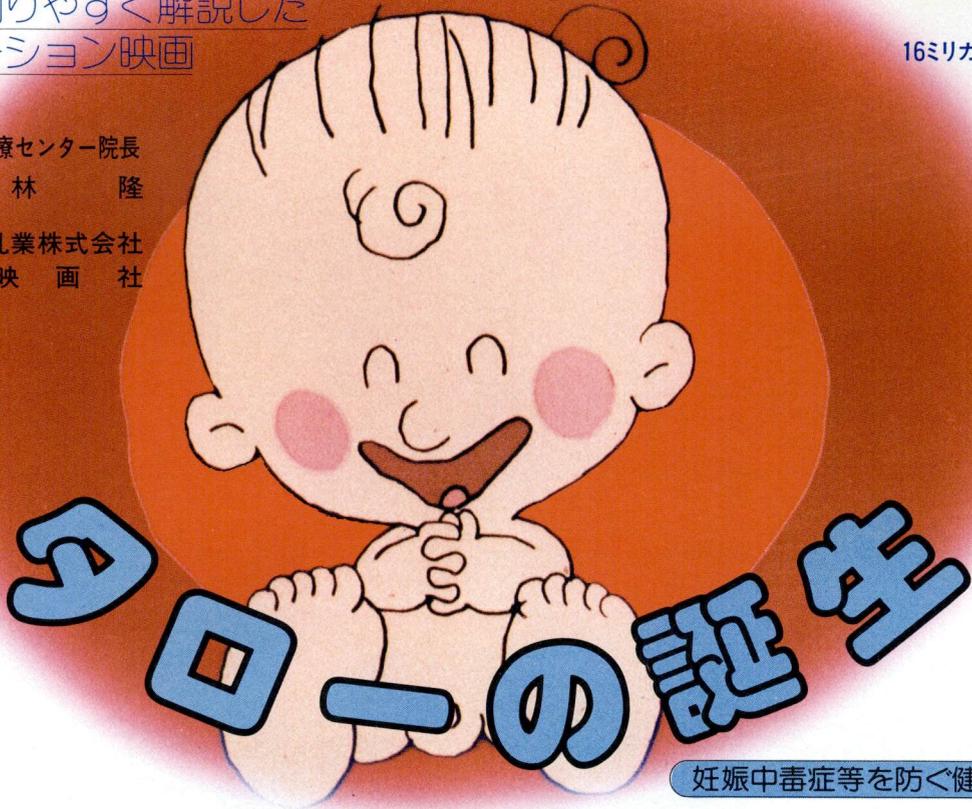


監修 日赤医療センター院長
小林 隆

企画 雪印乳業株式会社
製作 桜 映 画 社



妊娠中毒症等を防ぐ健康管理



「キャア。カカトの低い靴に代えるわ」



「エーッ。妊娠中毒! どうしましょう」



「ウーン。お塩はあと2gだけね」



「こんにちわ。パパ、ママ。僕タロー」

■監修の言葉

日赤医療センター院長 小林 隆

たいへん楽しいお産の映画が出来ました。なんといっても、アニメーションの画面は観ていてきれいですし、自然に映画にひきこまれてしまいます。

またこれもアニメーションならではの離れ業でしょうが、この映画のユニークな視点として、胎児を主人公に設定していることがあげられます。これまで、お母さんの側から描かれたお産の映画は何本かありましたが、この「タローの誕生」では、胎児のタローが自らを主張し、お母さんに注文をつけたりしているのです。これによって観客の妊婦は、「ああ、赤ちゃんはおなかの中でこんなふうにしてほしいと思っているのか……」と、映画を楽しみながら、妊娠中の健康管理について教えられることでしょう。

もちろん、ただ楽しくおもしろいだけでなく、妊娠中毒症や貧血のおそろしさ、それを防ぐための健康管理の重要性等についても判りやすく説明されていますから、妊婦のみならず、将来、出産をむかえる若い女性にも、そしてお父さんとなる男性にも、ぜひ観ていただきたいと思います。

■製作意図

この映画は、妊娠中の健康をどのように管理していけばいいか、アニメーションで楽しく判りやすく描いてみようとして企画しました。

アニメーションの特色を生かして、おなかの中の胎児「タロー」とその母親を主人公として、母親のちよつとした行動が胎児にどのような影響を与えているのか、その相関関係を判りやすく表現していく構成です。

主人公の母親は、共働きで、会社への通勤や仕事、また家庭での夫との関係などを追いながら、心の状態や行動、そして食事の仕方が胎児に与える影響について考えていきます。中でも食事と病気の関係＝妊娠中毒症と貧血について、病気の機序と対策を判りやすく説明していきます。

妊娠中の健康管理は、いわばどれもあたりまえの事ですが、妊婦自身が主体的に健康管理をしなければいけない事を主なテーマにしています。

■ものがたり

タローのママは妊娠5ヶ月、ジーパンがはけなくなったのを残念がっています。でもタローが生まれたら、親子3人でどこかきれいなところへ旅行がしたいな、なんて楽しみにしています。

タローが生まれてからも仕事を続けると頑張っているママでしたが、ある朝階段で転びそうになって、おなかの中のタローもビックリ。それからというもの、ママも反省してカカトの低い靴に代えてくれました。それでもラッシュの電車はやはり大変そうです。

でも会社につけば、タローの事も忘れたみたいで、一所懸命働いています。

「フーツ……頑張りやさんのママはいいけど、僕の事も少しは考えてよ。ママが疲れると、僕だって疲れちゃうんだよ」

タローがおなかの中で、ため息をついています。

ママとタローは、胎盤というところでつながっていて、タローはそこから栄養や酸素を受けとっているのです。だからママが疲れると、この胎盤がうまく働かなくなって、それでママやタローに異常が起きてしまうというわけなのです。

パパの帰りがおそいと、ママはイライラして、タローをぶかぶかふかしていますが、そんな悪影響だってすぐタローに及んでしまっているのです。

ママが夕食の仕たくをしています。しょっぱいもの好きなママのお料理は、どうも塩が濃すぎるようです。お塩をいっぱいすりこんだ塩焼の魚や濃いおみそ汁。ママはおなかのタローの分もと、頑張り食べていたのですが……

8ヶ月の定期検診で、ママは妊娠中

毒症と診断されてしまいました。そういえば、このごろ手足がむくんでいたようです。血圧も前より30も上がっています。おろおろするママに、お医者さんが妊娠中毒症を判りやすく説明してくれました。

妊娠中毒症というのは、妊娠後期にあらわれる病気で、現在でも妊婦の10人に1人はかかるそうです。子宮の血行が悪くなり、胎盤の働きが弱まって、胎児に発育障害が起こります。そしてひどい時には、早産や未熟児が生まれる原因になってしまうということです。

それを聞いておなかの中のタローもビックリ。でも幸いママの場合は症状が軽く、安静と食事療法で治ると、お医者さんはいつてくれました。

台所で表をみながら、おしょう油を計っているママ。あれからというもの、ママは食品含塩量表をかた手に、いろいろ工夫して食事のバランスを考えるようになりました。大好物の塩焼もパパの分だけ、ママはガマンしています。どうやらタローも調子が良くなってきました。

ママが病院へ行くと、待ち合い室でお友達の洋子さんに会いました。洋さんは、ご主人と2人で終夜営業のスーパーをやっています。そしてこの前、レジで貧血を起こして、たおれてしまったのです。それからというもの、大きらいだったレバーを食べたり、鉄のお鍋を使ったりして、いろいろ鉄分を摂るように工夫しているそうです。

ママも診察の結果、もう心配ないといわれて、ひと安心。でも食事療法はずっと続けるよう注意されました。

入院準備を始めるママ。タオルにガーゼに、それから母子手帳と印鑑。おなかの中では、タローが子宮の壁に圧迫されて、下の方へさがってきています。

分べん室に入るママの手を、パパがしっかり握りました。待ち合い室にとりのこされたパパ。待ちくたびれて、夜が明けるころ、分べん室の赤いランプが消えて、タローの元気なうぶ声が聞こえてきました。

「こんにちわ、ほくタロー」



■スタッフ

製作 村山 英世
中田実紀雄
脚本 藤原 智子
演出 白梅 進
撮影 V・A・C
音楽 越部 信義
編集 古川 雅士
進行 関 昭

■キャスト

タロー 山本 嘉子
ママ 鈴木れい子
パパ 納谷 六郎
医者 千葉 順二
友達 谷 育子

製作

株式
会社

桜映画社

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666

配給